

河北潟におけるアカミミガメ野外繁殖

野田英樹

金沢大学自然科学研究科生態学研究室
〒920-1192 石川県金沢市角間町

要約： 河北潟では、外来種であるミシシippアカミミガメの生息が確認されている。2003年6月に、河北潟野鳥観察舎周辺で発見したカメの産卵巣から持ち帰った卵が孵化し、アカミミガメの巣であったことが確認された。河北潟に生息するアカミミガメは野外で繁殖をしている可能性が高いと考えられる。

キーワード： 河北潟, アカミミガメ, 外来種, 野外繁殖, 産卵巣

はじめに

石川県には外来種を除くとニホンイシガメ (*Mauremys japonica*: 以下イシガメ) とクサガメ (*Chinemys reevesii*) の2種の沼ガメが生息している。イシガメは、主に山間部のため池などに生息し、クサガメは低地の河川や湿地に生息する (Yabe, 1989)。一方、近年ペットとして持ち込まれた外来種、ミシシippアカミミガメ (*Trachemys scripta elegans*: 以下アカミミガメ) の目撃例が増加傾向にあり、在来種の生存が危ぶまれている (安川, 2002)。

河北潟は、低地に広がる広大な水域である。岸辺で日光浴をするカメの姿が頻りに目撃されることから、カメにとっての良好な生育環境であると考えられる (野田, 2003)。河北潟のカメ個体群については、2001年より筆者らにより追跡調査が行われている (野田, 2003)。河北潟にはクサガメとアカミミガメが生息しており、捕獲個体数はアカミミガメが75%を占めていた (野田, 2003)。これほど多数のアカミミガメが放逐されたとは考え難いため、アカミミガメは野外で繁殖をしている可能性があると考えられる。

カメは長命な生物で、複数世代に渡る追跡調

査が困難である。それゆえ日本ではカメの生活史など、生態学的に重要な情報に関する研究が不十分である。これまで石川県内では、アカミミガメの野外での繁殖は報告されておらず、河北潟においてもその生態はほとんど知られていない。筆者は2003年に河北潟においてアカミミガメの繁殖を初めて確認した。そこで以下に概要を報告する。

産卵場所

カメの産卵巣は2003年6月18日に中川富男氏によって発見された。場所は石川県金沢市湊1丁目の河北潟野鳥観察舎周囲の土手である (図1)。産卵巣は砂質土壌で、イネ科植物の茂みにつくられていた。産卵巣は何らかの獣に掘り返されており、周囲に卵殻が散乱していたため、容易に発見された。掘られていない巣は発見されなかった。産卵巣は水路の土手沿いに複数発見され、水面から3~4mの位置で多く見つかった。半数以上の産卵巣は沼ガメの仲間のものであったが (写真1)、球形の卵殻を持つスッポン属 (*Pelodiscus sp.*) の産卵巣も含まれていた (写真2)。2003年6月20日に産卵巣の中を確認したところ、無傷の卵を1個発見し

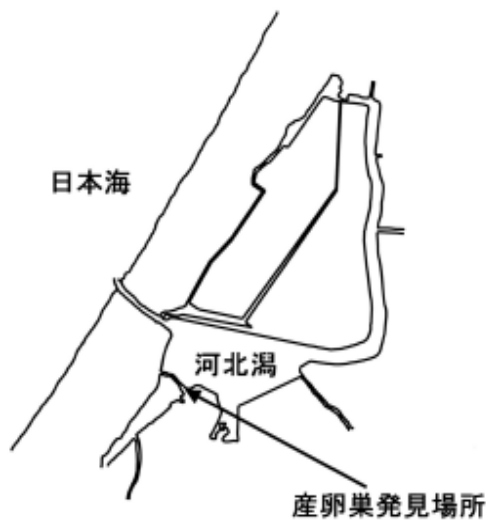


図1. カメの産卵巣発見場所.河北潟野鳥観察舎周囲の水路脇で巣を発見した.



写真1. アカミミガメの産卵巣の跡. 獣に掘られ, 周囲に卵殻が散乱している.



写真2. スッポンの産卵巣の跡. 獣に掘られ, 周囲に卵殻が産卵している. スッポンの卵は球形であり, 沼ガメ類と容易に判別できる.

た. 種を同定するため, 孵卵を試みた.

孵卵

プラスチックカップに湿った土を敷き, その上にカメの卵を置いた. カメの卵は胚形成後に動かすと胚が損傷するため(高橋, 2002), 発見時の状態を維持するよう留意した. カップは25度の恒温室内に置き, 表面の土が乾燥しない程度に水を噴霧した(写真3). 72日後の2003年8月31日に, 背甲長34mmのアカミミガメの幼体が孵化した(写真4).

捕食者

今回発見したアカミミガメの巣は, 何らかの獣に掘り返され, 卵を捕食されていた. カメの卵は多くの動物にとって良好な餌資源であり, 人が食用にする地域もある(高橋, 2002). アカミミガメの原産国, 北アメリカには, アライグマなど, カメの卵を捕食する生物が生息して

いる. 日本ではタヌキやノネコなどがカメの卵を捕食している可能性があると考えられる. しかしながら, 近年加賀市を始め, 県内でアライグマの捕獲が報告されているため(大畑, 2003), アライグマによる捕食の可能性もあろう.

アカミミガメの繁殖

アカミミガメの原産国は北アメリカである. 温暖湿潤な日本の環境はアカミミガメにとって生存しやすい環境であると考えられる. これまで, アカミミガメは頻繁に野外で目撃されてき



写真3. 孵卵中のアカミミガメの卵. 25 の恒温室に設置した.



写真4. 孵化したアカミミガメの幼体. 孵卵開始から72日後に孵化した.

たが, 野外で繁殖している決定的な証拠はあまり報告されていない. 石川県において野外で繁殖が確認されたことは, 今後さらにアカミミガメが増殖する可能性があることを示している.

おわりに

河北潟におけるカメ類の捕獲調査は, 筆者らにより過去3年間に渡って行われている(野田, 2004). これまで, 河北潟ではアカミミガメの幼体は多く捕獲されているが, クサガメの幼体は捕獲されていない. クサガメの繁殖行動に関する研究は充分に進んでおらず, 産卵場所に関する知見も少ない. 今後, カメ類の産卵行動など, 繁殖特性に関する調査・研究の必要があると考えられる.

謝辞

河北潟におけるカメ類研究を遂行するにあたり, 北陸水生生物研究センターの高橋久氏にはさまざまなご助言をいただきました. また, カメの産卵巣は中川富雄氏により発見され, 貴重な情報をお寄せいただきました. 厚く御礼申し

上げます.

引用文献

- 大畑孝二・中川直之. 2003. 平成14年度ラムサール条約登録地片野鴨池の管理計画及び生物調査に関する調査報告書.(財)日本野鳥の会. 東京. 141p.
- 高橋 泉. 2002. カラー図鑑 カメのすべて. 成美堂出版. 東京. 173p.
- 野田英樹・鎌田直人. 2003. 河北潟におけるカメ類の生息状況. 河北潟総合研究. 6: 11-17.
- 野田英樹. 2004. 淡水性カメ類の個体群特性と食性の関係. 金沢大学修士論文. 15p.
- Yabe T. 1989. Population structure and growth of the Japanese Pond Turtle, *Mauremys japonica*. Japanese Journal of Herpetology 13(1): 7-9.
- 安川 雄一郎. 2002. ミシシippアカミミガメ～大規模な国際取引による定着. 外来種ハンドブック. 日本生態学会(編). p.97. 地人書館. 東京.